

# 防災・生活安全分野

みなとタウンフォーラム  
第2グループ

## 第2グループ[メンバー]

大木 健司	工藤 裕美	国弘 和将
鈴木 達朗	関野 幸彦	田村 水咲
福嶋 仁	本多 由美	

※メンバーは五十音順



令和5(2023)年3月23日

# 提言にあたって

## 第2グループ【防災・生活安全分野】

私たち第2グループでは、①「区が発信する防災・減災情報の有効活用を促す新たな仕組み作り」②「災害に関する個人の意識改革」③「生活安全（防犯）における抑止力向上」の3つのテーマを設定しました。その上で、港区という地域特性を踏まえた課題、意見、危機感などについて具体的な事例を含めた充実した議論が行われました。

区職員への質疑応答も活発に実施され、防災・生活安全（防犯）に関して、既に多くの施策が検討され、情報が整備されていることも改めて認識することができました。その反面、そうした施策等が区民一人ひとりに浸透していないといったことも明らかになりました。

### 社会変化が与えるテーマへの影響

年々、防災、生活安全（防犯）の分野を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。自然災害は広域化、激甚化し、多様な人が存在するこの港区での避難行動や防災活動のあり方を再考すべき時期になっています。

また、国際化やデジタル化の進展により犯罪が多様化し、その手口が巧妙になってきている中、自分や家族を守っていくためにどうしたらよいのかといったことも考えなければなりません。

### テーマ①「区が発信する防災・減災情報の有効活用を促す新たな仕組み作り」

防災・減災分野に関しては、2つのテーマについて議論を重ねました。一つ目は「区が発信する防災・減災情報の有効活用を促す新

たな仕組み作り」です。

今まで行政からの情報は、地域コミュニティを通して、各家庭、個人へ共有されることが多くありました。しかし、近年のライフスタイルの多様化や、集合住宅の増加、再開発等が顕著な状況を踏まえると、新たな支援や仕組みづくりが必要であると考えました。

### テーマ②「災害に関する個人の意識改革」

二つ目は「災害に対する個人の意識改革」です。自助・共助・公助といった取組をバランスよく実現していくためには、まずは、個人が平時より防災・減災への意識を高めることが重要です。そのために、自助・共助の取組強化につながる学習機会の創出や、平時から個人の防災意識を高められる取組を施策の方向性として位置づけました。

### テーマ③「生活安全（防犯）における抑止力向上」

生活安全（防犯）分野については、「生活安全（防犯）における抑止力向上」をテーマに設定しました。近年の環境変化により犯罪が多様化・広域化している中、犯罪による被害の防止、抑止力向上のための施策を検討しました。

### 提言の実現に向けた想い

この議論がこの提言書で終わりではなく、今後の勉強会の立ち上げ等で区政とつながり続けられるような議論ができました。

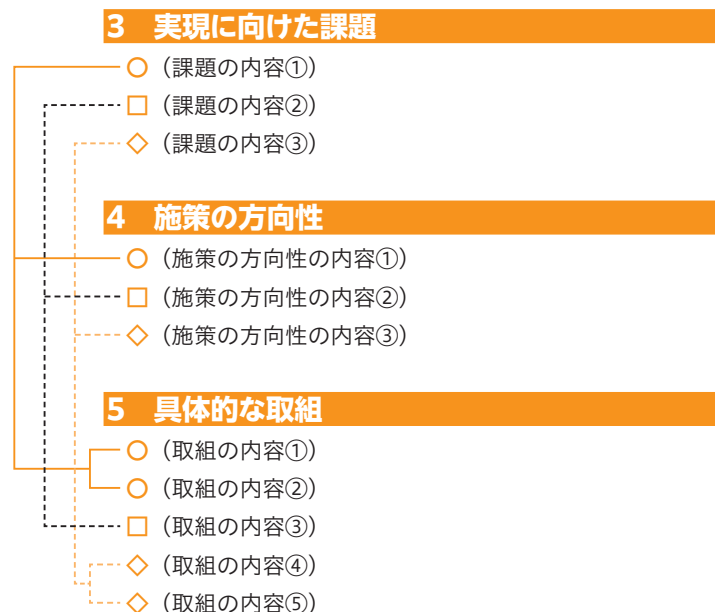
提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが継続的に関わりをもっていきます。

# 提言の体系

具体的な取組	
【テーマ1】 区が発信する防災・減災情報の有効活用を促す新たな仕組み作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 集合住宅や地域における防災・減災対策に関する取組の支援（自助、共助、公助）</li> <li>● 区民や企業とのつながりづくり（共助）</li> <li>● 情報発信・管理の充実・強化（自助、公助）</li> </ul>
【テーマ2】 災害に関する個人の意識改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様な属性やフェーズに応じた個人の意識改革（自助・公助）</li> <li>● 誰もが参加しやすい防災訓練（自助・共助・公助）</li> <li>● 平時における効果的な意識啓発（自助・公助）</li> </ul>
【テーマ3】 生活安全(防犯)における抑止力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報発信・情報開示、意識改革</li> <li>● 人と人とのつながりによる抑止力向上</li> <li>● インフラ整備による抑止力向上</li> </ul>

## 提言書の見方

提言書における、実現に向けた課題や施策の方向性、具体的な取組など、各項目間でつながりがあるものについては、記号（○、□、◇等）によって関連性を明らかにしています。



第1グループ  
【街づくり分野】

第2グループ  
【防災・生活安全分野】

第3グループ  
【環境・リサイクル分野】

第4グループ  
【地域・コミュニティ分野】

第5グループ  
【国際化・文化分野】

第6グループ  
【産業・観光分野】

第7グループ  
【子育て・教育分野】

第8グループ  
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ  
【福祉・保健分野】

# 区が発信する防災・減災情報の有効活用を促す新たな仕組み作り

## 1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「防災を自分のこととして捉え、個の自立と互いの助け合いによって安心感のあるまち」

デジタルの力などを活用しながら、災害時に能動的に動ける人を増やすとともに、平時の緩やかなつながりから支え合える関係づくりを進め、自分の命と互いの命を守ることができるまちを目指す。

## 2 踏まえるべき社会変化

### 地域コミュニティの希薄化

- 従来の地域コミュニティ活動に参加する人が減少し、地域とのつながりが希薄化している。
- 区民同士のつながりが少なく、「個」の時代ともいえる状況になった。
- 再開発等が進む中、転出入により地域のことを知らない人が増えてきている。
- ライフスタイルが多様化し、区民の地域との関わり方や必要とする情報が変化している。
- SNSなど情報伝達手段が進化し、人と人とのつながりもアナログからデジタルへ移行している。

### 働き方の多様化

会社に属さずに働く人やリモートワークが普及するなど、働き方が多様化している。

### 多くの外国人の存在

港区は外国人の人口割合が約一割を占めている。

### 防災活動を担う区民の高齢化

町会等の地域コミュニティにおいて、防災活動を担う区民の高齢化が進んでいる。

### 自然災害の発生

地震、台風、水害など、全国的に大きな被害をもたらす自然災害が発生している。

### 3 実現に向けた課題

- 区民同士のつながりは大切な一方、町会等の既存の地域コミュニティに加入するには心理的なハードルがあるなど、地域におけるつながりの手段が少なくなっている。
- 災害時を含め、区民が防災において果たす責務のようなものが不明確で行動しにくい。区と区民、地域コミュニティにおける区民同士のつながりもアナログからデジタルへの移行期である。町会等の既存のコミュニティだけでなく、企業やアプリなどを活用して区と区民、区民同士をつなげる仕組みが十分ではない。
- 人口の約一割を占める外国人を対象とした防災の取組の強化が求められる。
- 災害時における水の確保など、生活に密接に関わる課題への対応が不可欠である。防災対策には、民間企業と連携して対応していくことが求められる。

### 4 施策の方向性

- マンション（賃貸・分譲問わず）などの集合住宅や地域における防災・減災対策の取組を支援する。
- ◇ 地域コミュニティのあり方が変化していくなか、既存のコミュニティ以外でも新たなコミュニティを形成し、積極的に区民や企業をつなげる仕組みを構築する。
- △ 新たなコミュニティと行政との連携を強化し、資源のさらなる活用へと結びつけるために、情報発信・管理を充実・強化する。

## 5 具体的な取組

### ○集合住宅や地域における防災・減災対策に関する取組の支援(自助、共助、公助)

- ①マンション管理組合や企業、飲食店、学校などのネットワークや、災害時のライフラインの確保を強化する。
- ②個人と行政がつながることができる「バディシステム」やアプリなど、平時から災害時を意識した区と区民のつながりの仕組みを構築する。
- ③防災ボランティアや地域サポーター制度など、区民間における災害時の助け合いの仕組みを構築する。

### ◇区民や企業とのつながりづくり(共助)

- ①卒業生（OBやPTA等の平時のつながり）や同窓会（またはその発想、視点）を参考に、災害時に活用できる共助のためのネットワークを構築する。
- ②既存の地域コミュニティの枠組みにとらわれず、多様な地域住民（子ども、大人、外国人等）や企業など、地域全体で楽しく、気軽に参加して学べる防災訓練の実施と参加を促進する。
- ③企業が有する防災に関するノウハウや知見を活用し、区と企業が連携を進めることで地域の防災力を向上させる。

### △情報発信・管理の充実・強化(自助、公助)

- ①情報の受け手である区民のライフスタイルが多様化していることを踏まえ、携帯電話、SNS、デジタルサイネージ、アプリの活用など、世代、属性を考慮した区の情報発信と、区民の情報アクセス方法を確立させる。
- ②行政手続き等で窓口を訪れた区民に対して、防災・減災に関連する情報配布や情報ツール（区の公式LINE等）をプッシュ型で周知するなど、防災に関する取組の周知や注意喚起について積極的なアプローチを行う。
- ③港区の防災のホームページについて、他自治体などの先進事例を参考にしながら、防災に関する情報をより見やすくするなど、受け手である区民に的確な情報が届けられるように工夫する。
- ④公共施設や駅などに防災・災害支援情報（区のホームページ等）などにアクセスできる場所を設けるなど、防災に関心を持ってもらうきっかけづくりを行う。
- ⑤区の情報について、必要な人にどのように届いているかを把握（例：区の制度の申請者に対し、どの広報媒体（広報紙、SNS等）で情報を得たか確認）することで効果的な情報発信につなげる。



- ⑥（マンション敷地内にある防火用水について、マンション管理組合、町会の中で、どこが管理、設置している設備なのか不明確な状況が続いていた。区に確認したところ、区の管理物であると判明した事例があったため）災害時に有効的に活用できる防災設備について、設置状況等を区、管理者、利用者が確実に把握し、関係者と情報を共有する。

## 6 参画と協働の推進

- ①「集合住宅や地域における防災・減災対策に関する取組の支援（防災ボランティア等）」、「区民や企業とのつながりづくり（防災訓練への参加等）」及び「情報発信・管理の充実・強化（防災情報の効果的な発信等）」の取組に、区民や企業等がより関わることで、参画と協働を推進する。
- ②【テーマ1・2・3 共通事項】多様な受け手を意識した情報発信について、区民の意見を踏まえた内容を検討し、効果的な広報につなげる。
- ③【テーマ1・2・3 共通事項】提言を反映した基本計画の取組の進捗や効果（成果指標、公開可能な数値等）などを測定し、区の取組状況を「見える化」する。
- ④【テーマ1・2・3 共通事項】提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが参画し、取組に関わる事業の実施や効果の検証を区とともに実施する。
- ⑤【テーマ1・2・3 共通事項】区とともに継続的な関わりを持つ機会を創出する。

# 災害に関する個人の意識改革

## 1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

テーマ1と同じ

## 2 踏まえるべき社会変化

テーマ1と同じ

## 3 実現に向けた課題

- ・ 平時から個人で防災や減災に関する情報を積極的に取りに行き、主体的に行動できるような意識改革が求められる。
- ・ 区からの情報の効果的な伝え方も工夫が求められる。
- ・ 災害時に相談する相手や家族がいない場合、困ったときにどうしたらいいかわからない。

## 4 施策の方向性

- 多様な属性（集合住宅、単身世帯、高齢世帯、在勤者等）やライフスタイルに合わせ、個人が災害時における自分の命と互いの命を守るための行動がとれるよう、自助・共助の取組の強化につながる学習機会の創出を推進する。
- △ 日常から気軽に防災情報に触れられるよう、既存の防災・減災コンテンツなどを活用しつつ、防災に関連する遊びの要素を盛り込んだイベントや、誰もが参加しやすく楽しい防災訓練など、平時から個人の防災意識を高める取組を推進する。

## 5 具体的な取組

### ○ 多様な属性やフェーズに応じた個人の意識改革(自助・公助)

- ① マンション等の集合住宅、単身世帯、高齢世帯、外国人、中小企業等の属性やフェーズ（例：発災後〇日間）、状況（ネットワーク障害、ライフライン寸断等）に応じた防災・災害プレーブックを作成するなど、防災に関する個人の意識改革を進める。
- ② 災害時における個人に合った想定行動プランの作成を支援し、区や防災士からアドバイスをもらえるような仕組みを構築するなど、防災に関する個人の意識改革につなげる。



### △誰もが参加しやすい防災訓練(自助・共助・公助)

- ①区の防災訓練を汎用パート（幅広い層に共通する内容）と個別パート（子ども向け、外国人向け、企業向け等）に分けるなど、参加者の属性を意識した内容となるよう、工夫して実施する。
- ②平時から防災について考える機会を創出するため、アプリや趣味、遊び、コミュニティ活動の中に防災の要素を取り入れた啓発を行うなど、防災以外のテーマと防災を掛け合わせ、防災に関する意識向上を図る。
- ③民間企業と連携し、区民が楽しみながら参加できる防災イベント（例：防災スタンプラリー、ARを使用した防災訓練等）を企画・実施するなど、民間企業の企画力やコンテンツを活用した啓発を推進する。

### △平時における効果的な意識啓発(自助・公助)

- ①学校教育において防災教育を充実させる。
- ②災害時のトイレ対策や水確保の重要性など、日常生活と密接に関わる防災対策を周知・啓発し、防災意識向上を図る。

## 6 参画と協働の推進

- ①「多様な属性やフェーズに応じた個人の意識改革（個々の状況に合った防災意識の向上等）」、「誰もが参加しやすい防災活動（防災活動への参加等）」及び「平時における効果的な意識啓発（防災教育等）」の取組に、区民や企業等がより関わることで、参画と協働を推進する。
- ②【テーマ 1・2・3 共通事項】多様な受け手を意識した情報発信について、区民の意見を踏まえた内容を検討し、効果的な広報につなげる。
- ③【テーマ 1・2・3 共通事項】提言を反映した基本計画の取組の進捗や効果（成果指標、公開可能な数値等）などを測定し、区の取組状況を「見える化」する。
- ④【テーマ 1・2・3 共通事項】提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが参画し、取組に関わる事業の実施や効果の検証を区とともに実施する。
- ⑤【テーマ 1・2・3 共通事項】区とともに継続的な関わりを持つ機会を創出する。

## 1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「国籍や老若男女問わずあらゆる人が、リアルでもオンラインでも安全で安心に暮らせるまち」

日常の防犯に関することや被害に遭ってしまったときに、いつでも相談できる人がいる、誰に相談して良いかわかるような、つながりがあるまちを目指す。

## 2 踏まえるべき社会変化

### 地域コミュニティの希薄化

核家族の増加などの影響で地域との関わり方が低下した。以前はご近所などの地域の目によって抑止されていたことが、今では何か起きても注意しにくい社会となっている。

### インターネット(SNS等)上における広範囲のつながり・デジタル化(デジタル社会が浸透したことに対する影響)

- SNSの普及などにより、インターネットを通じて顔の見えない人とのつながりが増えた。結果、SNSを利用した犯罪やフィッシングなどのデジタル犯罪が増加している。
- デジタルデバイド(情報格差)によって、デジタル弱者が犯罪被害に遭いやすくなっている。
- Eコマース普及拡大により置き配が増加したことで、新たな盗難被害リスクが高まっている。

### 犯罪の国際化

犯罪組織が国際化・組織化(企業化)しており、犯罪が多様化し、その手口が巧妙になっている。

### 多くの外国人(区民、旅行者)の存在

外国人居住者や旅行者が多いため、外国人も犯罪被害に遭うリスクが増える。

### 区内の人口増加

- ファミリー層が増えたことに伴い、子どもが被害にあう可能性が増える。
- 子どもを対象に不審者に声を掛けられるリスクが懸念される(刑法犯認知件数に計上されていない「声かけ」などの件数)。

### その他

- 一人乗りの電動キックボード等のモビリティ普及による、公共の場所でのトラブルの危険性がある。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止によるコミュニケーションの不足、ストレスの増加、収入等の影響による生活が変化している。

## 3 実現に向けた課題

### ○情報発信・情報開示、意識改革

- 犯罪・防犯に対して身近な情報が入ってこないため、自分のこととして考える機会が少なく、防犯意識が低くなっている。
- 情報弱者が増えている（デジタルデバイド）。サイバー攻撃など手口が巧妙化している。
- 情報コンテンツが多すぎるため、情報の受け手が多様化している。そのため、既存の区の広報では伝わりづらい。

### △人と人とのつながり

- 人とのつながりが希薄化し、相談する先がわからない。
- 他者の被害を他人事として捉えるという考え方が増えている。
- 人の目が見えるような、町会などを活かした地域密着の防犯体制が必要である。

### □インフラ整備

- 防犯カメラなどの適度な抑止力が必要である。
- 事前の抑止につながるような仕掛けが必要である。
- 高齢者対策など、アナログ的な認知・周知方法が必要である。外国人に対応した支援内容を検討する必要がある。

## 4 施策の方向性

### ○情報発信・情報開示、意識改革による抑止力向上

犯罪・防犯に関する情報を多様な受け手に伝わるよう発信方法を工夫する。

### △人と人とのつながりによる抑止力向上

平時から安全に安心して暮らせるよう、顔の見える関係を築く。

### □インフラ整備による抑止力向上

既存の防犯設備に加え、新たなインフラも整備する。

## 5 具体的な取組

### ○情報発信・情報開示、意識改革

- ①防犯に関する注意喚起や防犯対策などの情報を一元化し、区の情報媒体に掲載するとともに、区からプッシュ式でも定期的に通知する。
- ②区HPで防災と防犯のページを分けるなど、情報発信の仕方を工夫する。
- ③被害の抑止になる詐欺防止グッズを配るなど、アナログ的な周知方法も並行して拡充する。
- ④プライバシー保護に配慮しつつ、防犯カメラの貸出しなど既存の制度を強化するとともに、防犯カメラが設置されていることを表記するなど、多くの人に周知する。
- ⑤地域の防犯活動などに参加してもらえようような動機・きっかけづくりとなる情報発信を行なう。
- ⑥区の情報について、必要な人にどのように届いているかを把握（例：区の制度の申請者に対し、どの広報媒体（広報紙、SNS等）で情報を得たか確認）することで効果的な情報発信につなげる。

### △人と人とのつながりによる抑止力向上

- ①誰でも気軽に楽しく参加できる地域パトロールを実施し、参加方法（マッチング等）や活動内容を多様化させるなど、地域における防犯の輪を広げる。
- ②地域コミュニティ内での防犯メンター（防犯の助言や支援を行う人、防犯意識の高い人）の育成や、リアルやオンラインを問わず、困ったときに区や地域の人に気軽に相談できるような仕組みづくり（「バディシステム」等）など、防犯意識の高い地域のつながりをつくる。

### □インフラ整備による抑止力向上

- ①防犯ブザーや詐欺対策グッズの配布など、デジタルに弱い人でも容易に活用できるアナログな対策方法を拡充する。
- ②企業と連携し、画像分析などのIT（AI）技術を用いた防犯カメラや、テクノロジーを活用した見守りについて普及啓発を行うなど、最新技術を効果的に活用した取組を推進する。
- ③企業等と連携し、緊急時にはオフィスや店舗に駆け込むことができるようにするなど、地域の防犯体制を強化する。
- ④企業等と連携し、地域に人の目を感じられるような取組を推進することで、犯罪抑止力の向上につなげる。（例：キッチンカーによる地域の目の役割）

- ⑤区民が不安に感じた情報や不審者情報等を相談、報告できるような仕組みなど、地域の防犯に関する情報（犯罪に至らない情報含む。）の共有化を図る。
- ⑥外国語対応を含め、犯罪被害に遭ってしまった際の相談窓口など、犯罪被害者に寄り添った支援を行う。

## 6 参画と協働の推進

- ①「情報発信・情報開示・意識改革（防犯情報の共有等）」、「人と人とのつながりによる抑止力向上（地域パトロールへの参加等）」及び「インフラ整備による抑止力向上（地域の見守りの目の確保等）」の取組に、区民や企業等がより関わることで、参画と協働を進める。
- ②【テーマ1・2・3 共通事項】多様な受け手を意識した情報発信について、区民の意見を踏まえた内容を検討し、効果的な広報につなげる。
- ③【テーマ1・2・3 共通事項】提言を反映した基本計画の取組の進捗や効果（成果指標、公開可能な数値等）などを測定し、区の取組状況を「見える化」する。
- ④【テーマ1・2・3 共通事項】提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが参画し、取組に関わる事業の実施や効果の検証を区とともに実施する。
- ⑤【テーマ1・2・3 共通事項】区とともに継続的な関わりを持つ機会を創出する。

# 開催経過

回数	開催日時	内容
第1回	令和4年9月21日(水) 18時30分～20時45分	<ul style="list-style-type: none"><li>事務局紹介</li><li>グループ会議の進め方について</li><li>分野における現状と課題について</li><li>検討テーマの選定</li><li>リーダー、サブリーダーの選出</li></ul>
第2回	令和4年10月17日(月) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"><li>第1回グループ会議の振り返り</li><li>検討テーマ「防災」に関する議論</li></ul>
第3回	令和4年10月31日(月) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"><li>第2回グループ会議の振り返り</li><li>検討テーマ「防災」に関する議論</li></ul>
第4回	令和4年11月14日(月) 18時30分～19時50分	<ul style="list-style-type: none"><li>第3回グループ会議の振り返り</li><li>検討テーマ「防災」に関する議論</li></ul>
第5回	令和4年11月28日(月) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"><li>第4回グループ会議の振り返り</li><li>検討テーマ「生活安全（防犯）」に関する議論</li></ul>
第6回	令和4年12月12日(月) 18時30分～20時40分	<ul style="list-style-type: none"><li>第5回グループ会議の振り返り</li><li>検討テーマ「生活安全（防犯）」に関する議論</li></ul>
第7回	令和4年12月26日(月) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"><li>第6回グループ会議の振り返り</li><li>提言書案について</li></ul>
第8回	令和5年1月16日(月) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"><li>第7回グループ会議の振り返り</li><li>提言書案について</li><li>提言式について</li><li>グループ会議全体の振り返り・意見交換</li></ul>